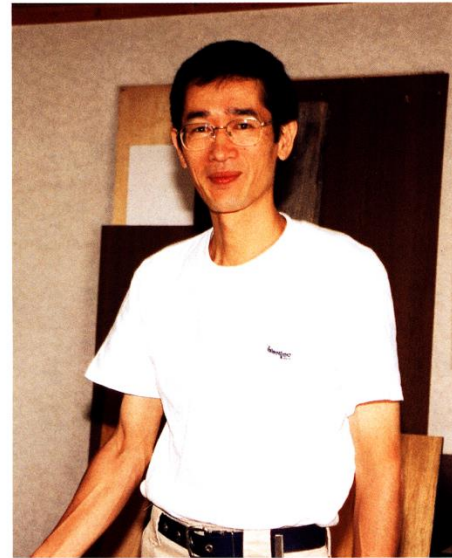


この人に聞く



前島 康利さん（磐田市掛塚）

祭りの主役でもある屋台を彩る豪華な彫り物。子供のころ、あの繊細な彫り物に目を奪われてからずっと憧れ続け、とうとう自分の工房を開いた方がいらっしゃいます。今月の「この人に聞く」は、彫刻を趣味から職業へと成功させた磐田市掛塚の前島康利さんに「彫刻」の魅力を伺いました。

ずっと彫刻師に憧れて

彫刻との出会いは前島康利さん（以下「前島」）に省略。子供のころ、地元の祭りで屋台に飾られた細かな彫り物を見る度に「すごいなあ。昔の人はこれをどうやって作ったんだろう？」と不思議に思ったのが始まりでした。いつか、このような作品を自分でも作れたらいいな」と、非常に興味を持ったのを憶えています。

工作などが得意だったのです。前島 得意と言うより、子供のころから木や粘土で物を作ったり、絵を描くのは大好きでした。スケッチブックを買ってきて、思いのまま絵を描いたり、ノートの端っこによく落書きをしたりしていました。

鑿を離すことはなかった

いつ頃から彫り始めたのですか
前島 中学生の終わりのころ、自

作品は、どのようにして作るのですか
前島 まず、どのような図柄にするか、デザインを考えて下絵を描きます。それを木に書き写して彫ります。何種類もの鑿の中から、彫る大きさや細かな部分によって使い分け、彫り始めからすべて鑿だけで彫り上げていきます。

一つの作品を作るのにどのくらいかかるのですか
前島 大きさによりますが、小ぶりなもの（20cm×30cm×4cm）でしたら、デザインさえ決まれば10日〜2週間ほどで仕上がりますが、丸彫りですと、裏面まで彫りますので3倍は時間が必要です。また、仏像（豆知識写真）のように、表面をツルツルにするには、さらに2倍の時間がかかりますね。

材料は何を使うのですか。
前島 屋台彫刻は、今はほとんどがケヤキを使用しています。屋台の場合、大工さんが用意してくれませんが、個人の方から依頼の場合、自分で仕入れることもあります。彫刻の難しい点はありますか
前島 下絵を描くのに時間がかかります。それと



▲中の玉を回りを壊さず彫り上げる



▲お店の看板

分で材料を調達し、5〜6本の鑿（のみ）を使って彫ったのが最初です。ある彫刻師に「弟子にしてほしい」と頼んだこともありましたが、その時は、その方の事情で断られてしまったのですが、その後にも鑿を離すことなく、社会人となり家業の商売を継ぎながら、仕事が終わった夜には、趣味で何かしら彫っていました。でも、趣味のままだでは世に出ないし、「自分の作品が各地に残せたい」という思いが「プロになってみたい」という気持ちに強く変わりました。そして、8年前に本格的に始めたのです。その間に家業もやめました。

繊細な美しさが魅力

彫刻の魅力を教えてください
前島 鑿だけでこんなに繊細なものが出来るというのが、作品として自分の思い描いたものが、そして現実になった時の満足感でしょうか。思い通りに仕上がった作品を手にとると、なんとも言えない感動があります。

今後はどうしていきたいですか
前島 いつか、名彫刻師と言われるように、もっと腕を磨いて、素敵な作品を製作していきたいと思っています。そして、もっと多くの人たちに彫刻の良さを知ってもらいたいですね。

ちよっと豆知識

◆彫刻の知識
日本彫刻の歴史は、原始時代の土偶に始まり、現在まで多くのジャンルにわたる。しかし、鎌倉室町時代までは仏教彫刻が占め、その後時代と共に変遷を遂げてきたが、日本彫刻の歴史は、仏教彫刻の歴史といっても過言ではないかもしれない。



▲前島さんの作品



▲彫刻師の命とも言える鑿



▲2週間で仕上げてしまうという片面彫りの作品



▲集中すると時間を忘れて彫り続ける